

# 有料老人ホーム入居者を 対象にしたライフレビュー法の QOLへの影響

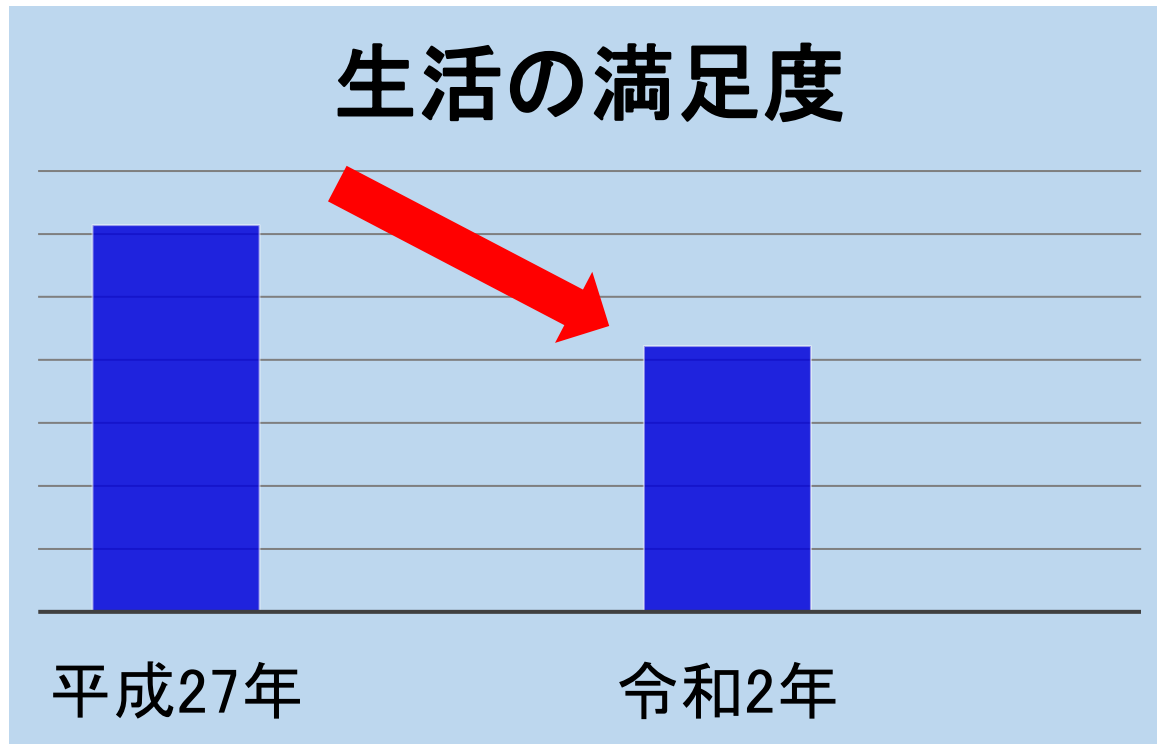
ドマーニ神戸 Aステーション

○ 中島 翔治  
堀部 恭兵

---

# I .はじめに

## 令和2年度 生活と意識に関する国際比較調査



30.7%→21.1%

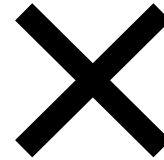
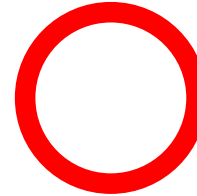
減少

生活史の情報が必要

# 一般居室から介護居室の入居時

ケア内容・性格

経緯・生活史



人生への  
自信  
ADLの  
改善

ライフレビュー法

目的

日々のケアの見直し、QOLの影響

UP

## Ⅱ.研究方法

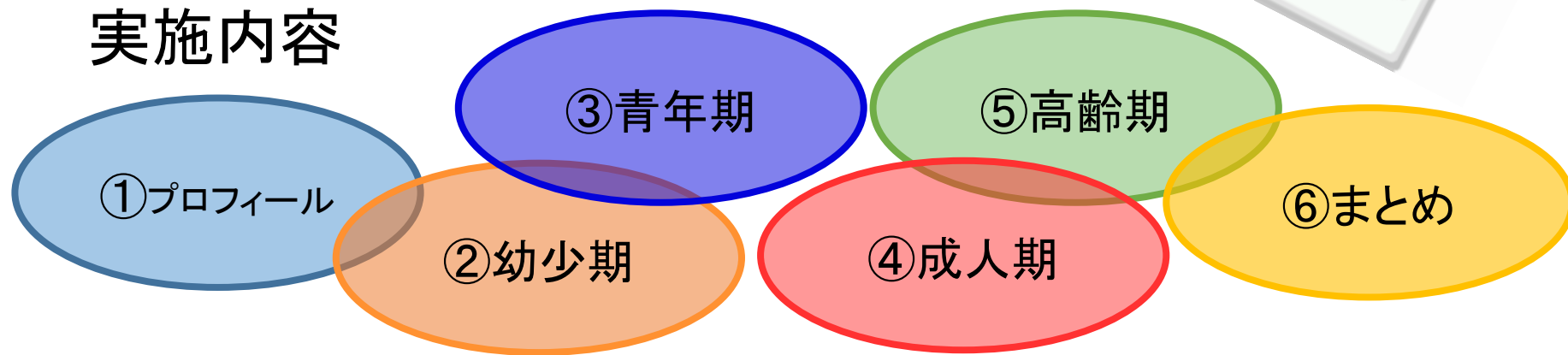
### 研究対象

個別のコミュニケーションが可能な 80代 女性 1名

### 研究期間

2021年7月～2021年12月

### 実施内容



→ 週に1度連続して6回、30分程度の個別面談

### Ⅲ. 評価方法

#### WHO-5 精神的健康状態表



6件法で回答を求め、それぞれに0～5の得点を付け、合計得点が高いほど精神的健康が良好。

全くない: 0点

ほんのたまに: 1点

半分以上の期間: 2点

半分以上の期間: 3点

ほとんどいつも: 4点

いつも: 5点

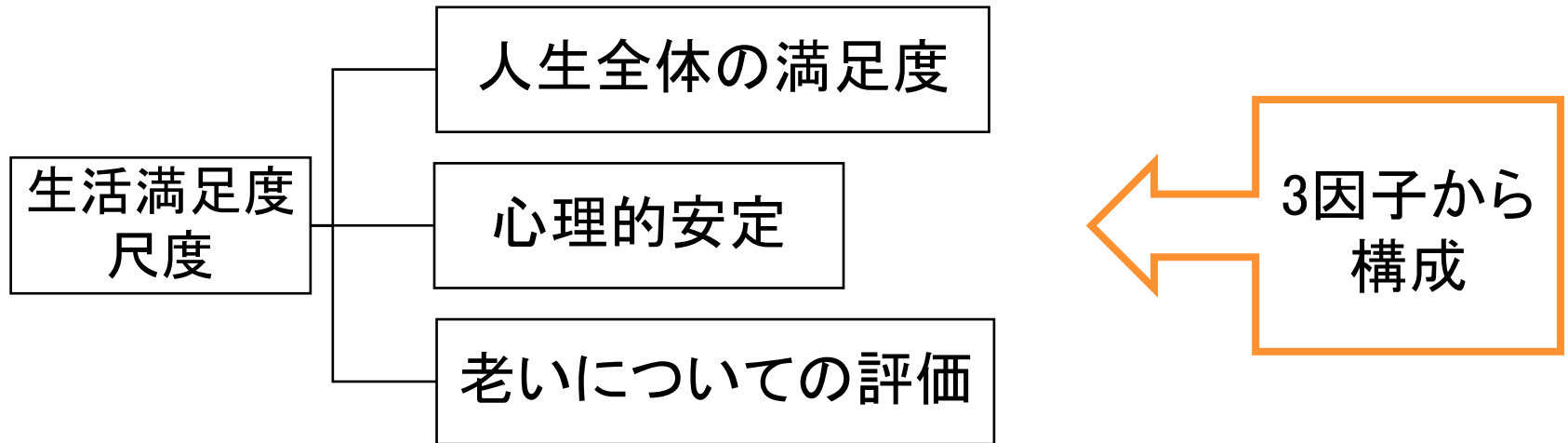
良好

## 評価方法②

### 生活満足度尺度



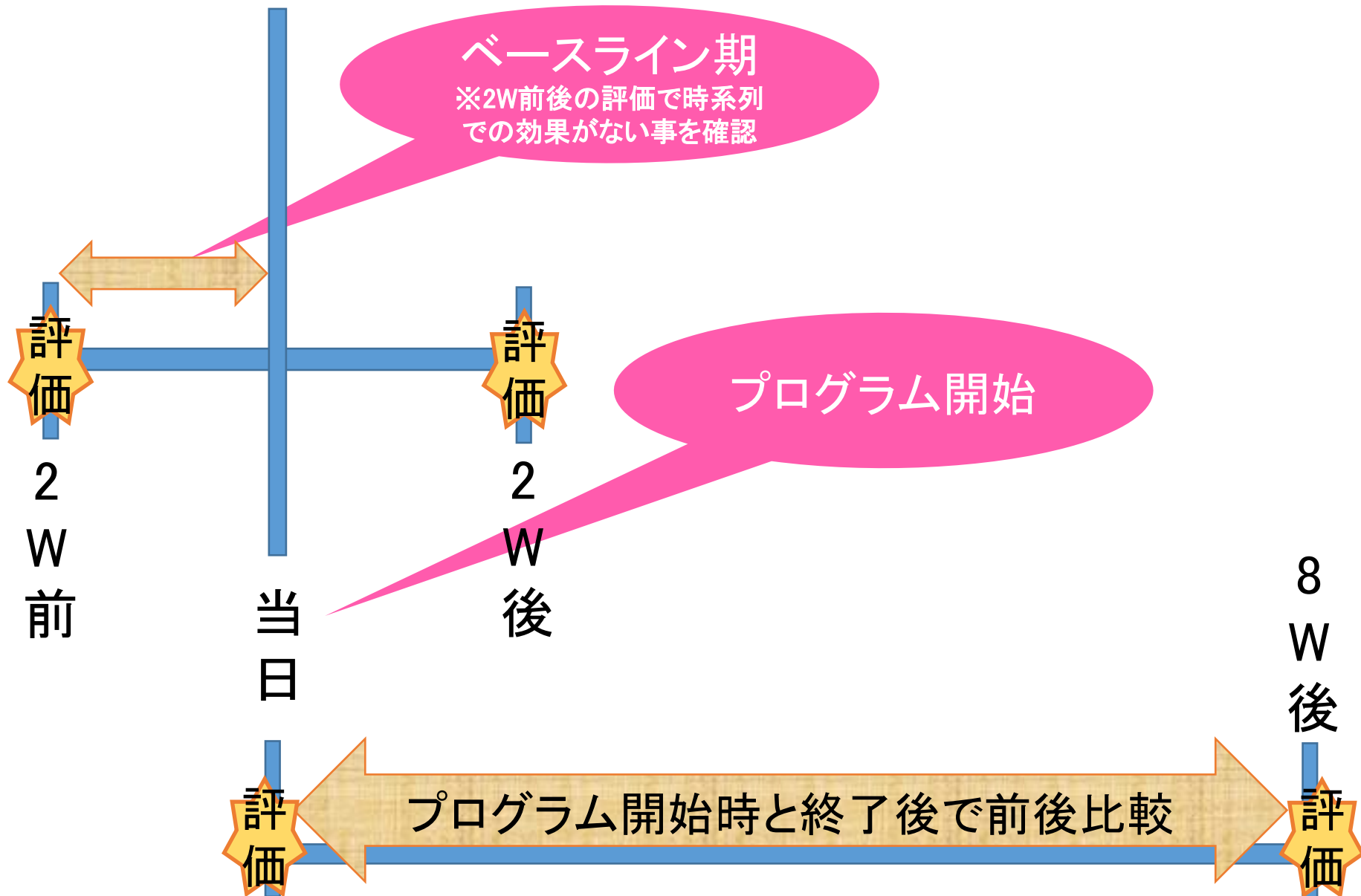
9項目に対して肯定的な回答に1点を付け、  
合計により得点を算出。



その他

面接後に感想を聞き、質的評価として用いる

# 評価時期と分析方法

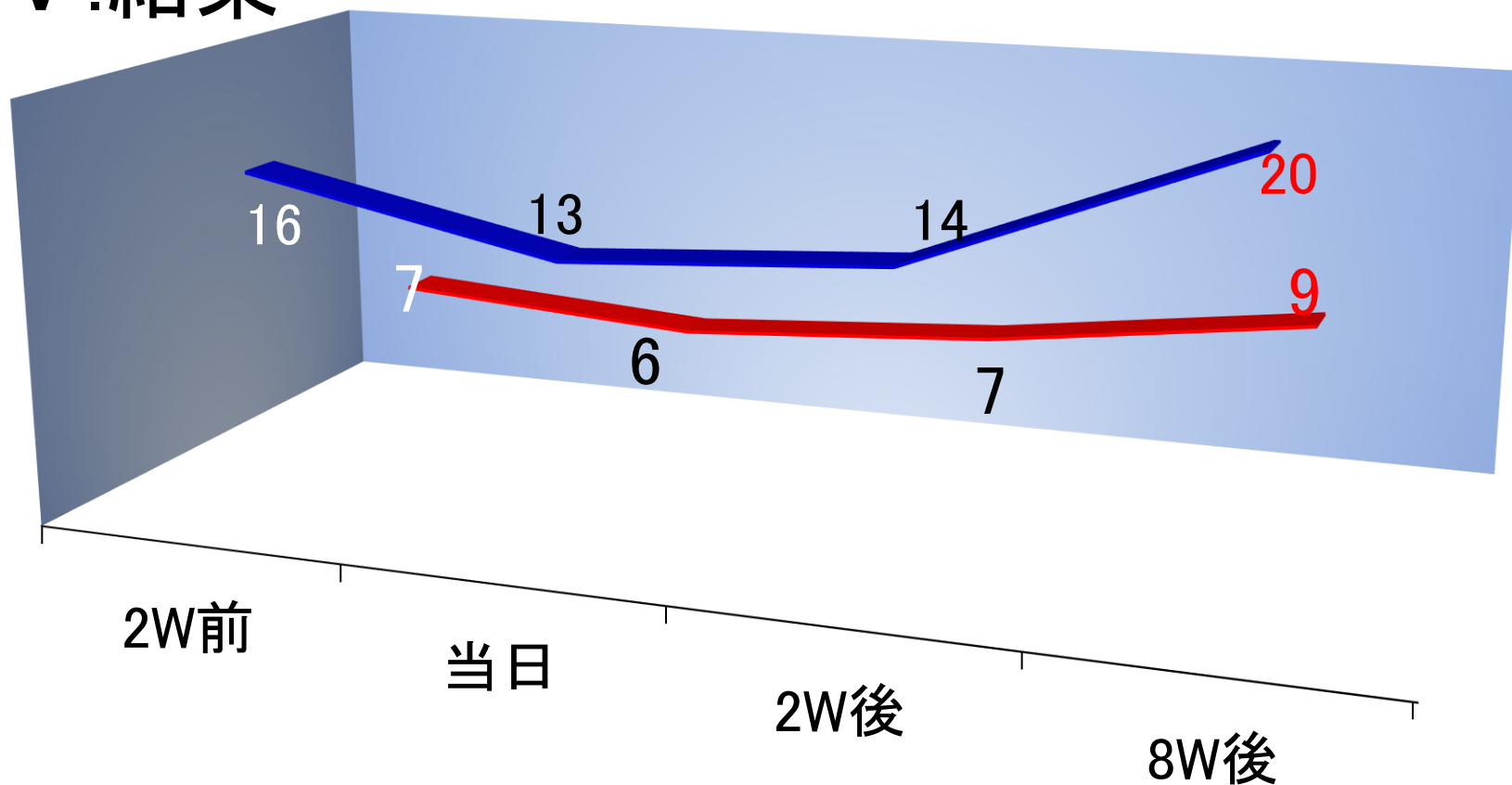


## IV.倫理的配慮

- ・参加者本人に体調がすぐれない場合にはプログラムはいつでも中止することを事前に伝え、評価やプログラム実施の際の疲労や苦痛によって負担にならないように配慮した。

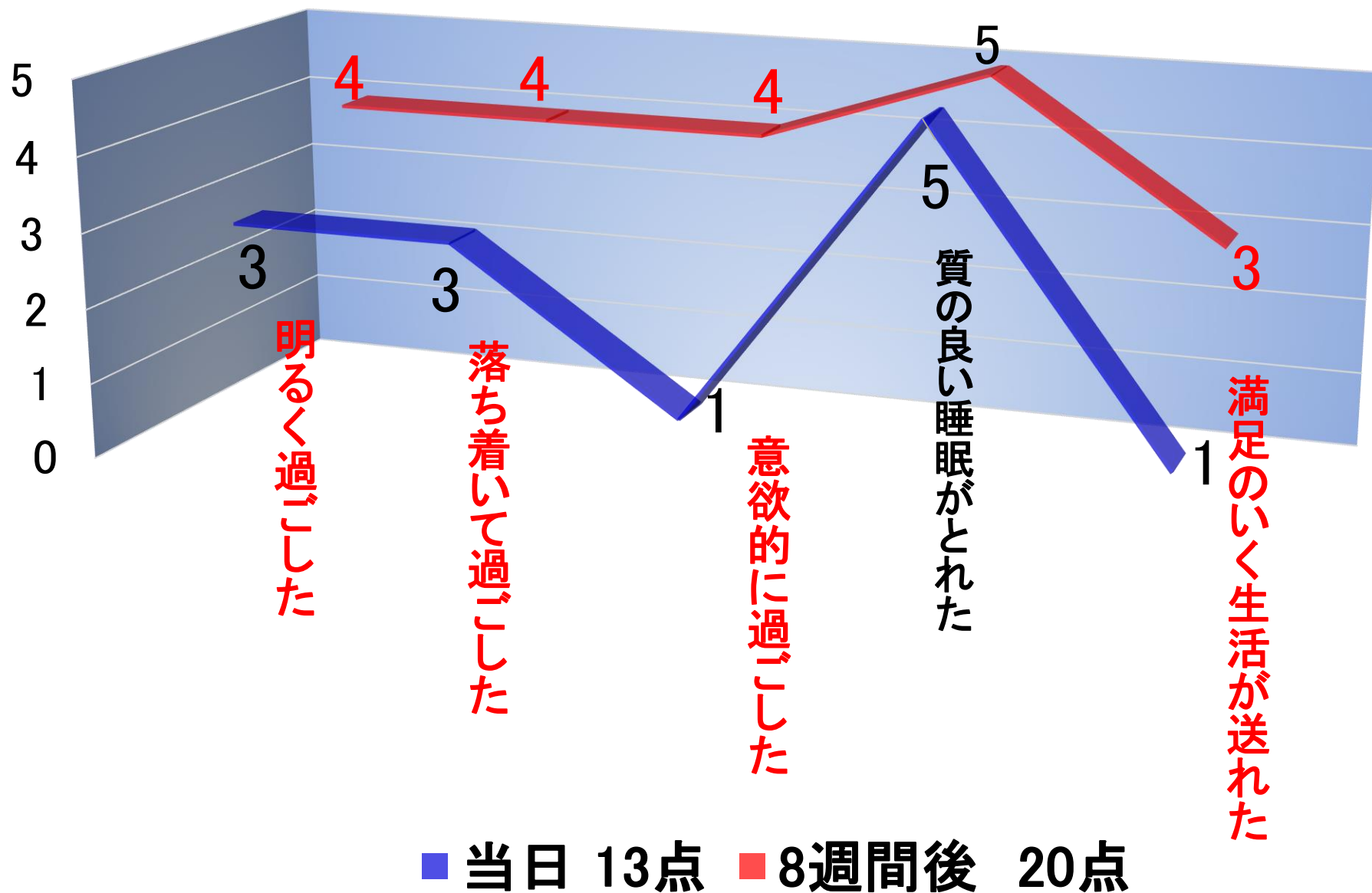
- ・また参加者本人と家族には研究内容やデータが外部に漏れないように、取り扱いには十分に配慮し、同意が得られなかった場合でも何ら不利益は生じないことを口頭で説明し、同意書に署名を得た。

# V.結果



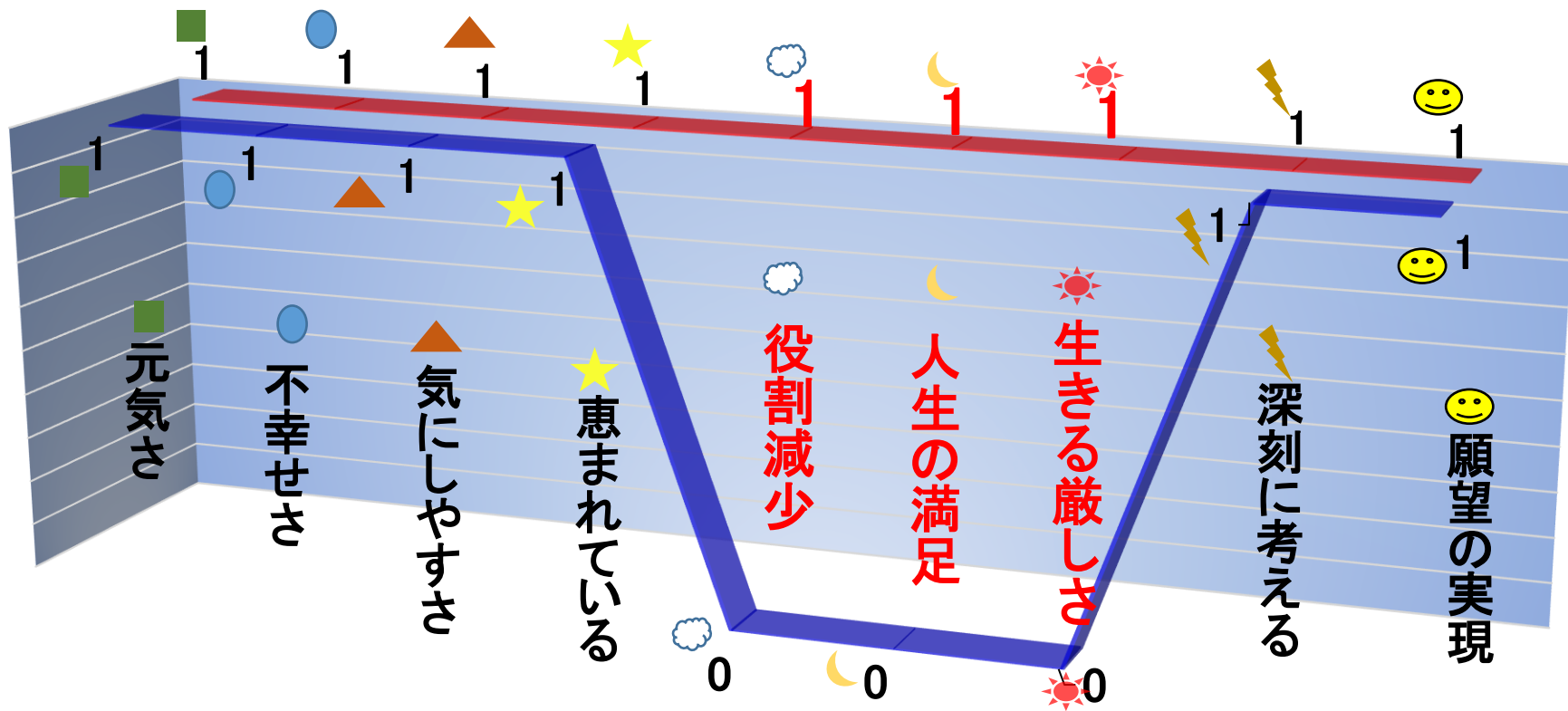
| スケール       | 評価日 |     |     |     |
|------------|-----|-----|-----|-----|
|            | 2W前 | 当日  | 2W後 | 8W後 |
| ■ 精神的健康状態表 | 16点 | 13点 | 14点 | 20点 |
| ■ 生活満足度尺度  | 7点  | 6点  | 7点  | 9点  |

## 結果② WHO-5 精神的健康状態表



# 結果③

## 生活満足度尺度K(LSIK)



■ 当日 6点

■ 8週間後 9点

# 対象者の質的評価

面接への感謝

住んでいた場所や、時事エピソード

『その辺走り回って いただけやから』

『特別何もないね』

UP

幼年期から青年期



息子様  
現状

義母の死

会社の事

成人期から高齢期



## VI. 考察

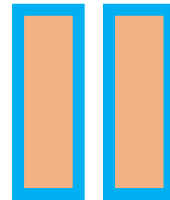
精神健康

ネガティブ  
気分

自尊心感情



改善あるいは改善傾向



ライフレビュー法は心理的QOLを  
向上させる可能性がある

## 考察②



鮮明

濃

小学校高学年位の頃  
の事はよく覚えてる  
よ！！

自分の役割を思い出し、過去を振り返ることが出来たことにより、満足感を得られる結果に。

曖昧

淡

しかし・・・  
高齢期になるほど記憶は曖昧に・・・



# 考察③

精神的健康状態

生活満足度

開始時よりも8週間後の合計点がUP

慣れ

シングルケースでは  
持ち越し効果が影響？



理解

インタビュー

ウォッシュアウト期間

インタビュー

結果  
= ??

## 考察④

生活歴などの情報収集



ライフレビュー法を用いたインタビュー



→→→継続的に聞くことは困難な状況・・・

# 考察⑤

一般棟

外部

ケア棟

過去の生活歴

情報が  
少ない

考え

ケアの  
画一化

リアルタイムでの  
情報収集

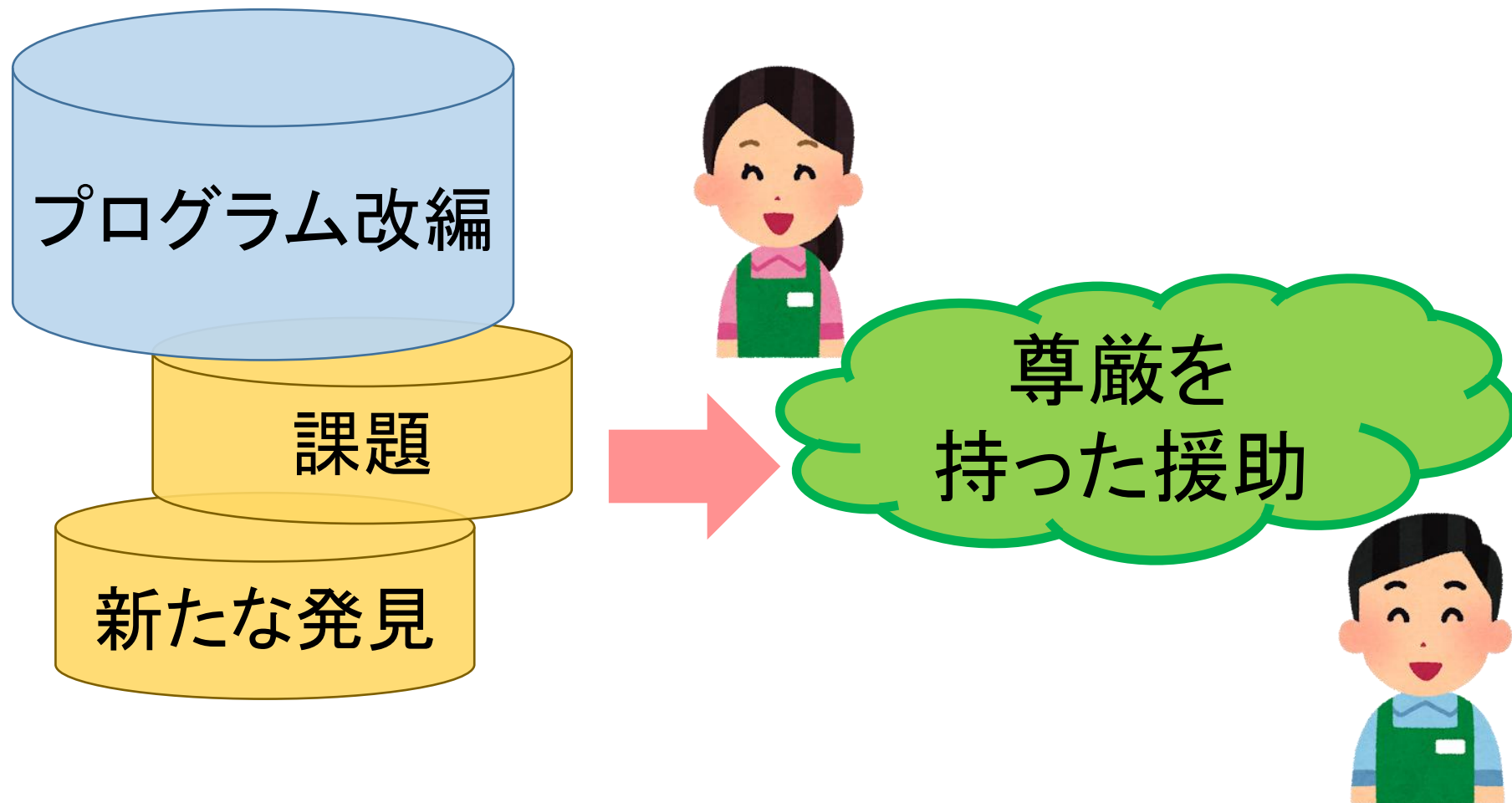
性格

生活歴

考え方

入居から終末期迄のケアの個別化  
又ご入居者、その家族様の満足度の向上

## 考察⑥



ご入居者がより輝けるよう今後も考える

## VII. 文献

1)令和2年度第9回 高齢者の生活と意識に関する国際比較調査

[https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r02/zentai/pdf/2\\_8.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r02/zentai/pdf/2_8.pdf)

2021年 6月15日閲覧

2)Madeleine M.Leininger 近藤潤子 伊藤和宏監訳: Qualitative Research Method in Nursing,看護における質的研究, P154, 医学書院, 1997.

3)河合千恵子、新名正弥、高橋龍太郎: 虚弱高齢者を対象にした心理的QOL向上のためのライフレビューとライフストーリーブック作成プログラムの効果(2013)老年社会科学 第35巻第1号P39～48

4)社会工房オンライン

<http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/index.html> 2021年

11月15日閲覧

5)原 祥子: “いま, ここ”で生きる高齢者を理解する方法に関する一考察ーライフストーリーを読み解く視点から(2004)日本看護研究学会雑誌P83～92